

学校名： 横浜市立上飯田中学校

担当教科： 中学校社会

氏名： 岡澤 貴雅

## 1. 今回の研修における目的やねらい

私の勤務する上飯田中学校は、外国籍の生徒・外国につながる生徒が半数近く在籍している。国籍も様々でベトナム・カンボジア・ラオス・中国などアジアの国が多い。今回の研修では彼らの出身国の一つであるカンボジアを訪問し、彼らの抱えている背景を体験することで、今後の教育活動（特に生徒理解や保護者理解）に生かす。

社会科の授業の中で、「世界の国調べ」でカンボジアを取り上げ、ただ調べたことをまとめて発表するだけでなく、外国籍の生徒が自国を尊重できる態度を養うこと。また、日本人の生徒も、外国籍の生徒の母国を尊重できる態度を養うこと。

戦争の傷跡がまだ残るカンボジアを各国が支援していく中で、「支援」とは何かを生徒に考えさせる材料を探す。

## 2. 目的やねらいがどのくらい達成されたか

カンボジアでの10日間の研修で、生徒や保護者の持つ背景が知れたかということ、不十分である。しかし、研修で現地の方々と交流したり、話を聞いたりすることによって、物事に対する考え方や国民感情の一部は肌で感じる事ができた。また、多くの人々がいろいろな立場からカンボジアを復興させるために支援したり、自立への道を作っていたりしているのを見ることができたので、今回の研修では十分に見識を深めることができたと思う。

## 3. カンボジア国から学んだこと

派遣前は「カンボジア」と聞くと「地雷」や「貧しい」といった暗いイメージが大きかったが、実際に行ってみるとそのイメージは大きく変わった。確かに、「過去」に悲惨な歴史を持っている国ではあるが、「現在」は経済成長が進んでいて、食糧は豊富で街中で見る人々の表情がとても明るいのが印象的だった。「現在」を生きる人々がどのように生きているかを知ることの重要性を学んだ。社会の授業では他国の歴史や地理を扱うことが多いが、実際に現地の人々が「現在」をどのように生きているのかを知り「未来」を考え行動していくことの重要性を学んだ。

## 4. 今回の研修経験をどのように教育活動に活用しようと思っているか

社会科の地理の授業でカンボジアの国調べを取り上げ、歴史的背景や現在の産業などの調べ学習を行う。その際に今回の研修で持ち帰った写真や、カンボジア日本友好学園の生徒との交流記録を資料に授業を展開したい。

理科教育改善プロジェクトや教員養成校を視察したことをもとに、先進国の開発途上国に対する「援助」について考える授業を展開したい。

カンボジア日本友好学園の生徒との交流をもとに、どこの国の人もみな、自分の将来のために頑張っていることをメッセージカードを通して体感させ、国籍が違えどもお互いに尊重しあう態度を養う。

## 5. 今回の研修に参加してよかったことや、よりよくするための提案

今回の研修では、普通に観光で訪れて見れるものだけではなく、JICAの事業だからこそ見れるものがたくさんあり、非常に充実していた。カンボジア日本友好学園を訪問するだけでなく、宿泊までできたのは非常に良かったし、不発弾処理の現場を視察できたのも良い経験だった。また、通訳のメン・アンさん、JICAカンボジア事務所の小川さん、IKTTの森本さん、カンボジア日本友好学園のコン・ヴォーンさんなど様々な方との出会いも今後の自分の財産となった。

よりよくするための提案としては、訪問先の都合もあるだろうが、もう少しどのような流れで話を聞くとか交流するなどの詳細なスケジュールが、事前に明確に分かっていると良いと思う。また、今回と同じメンバーで来年も同じコースで研修し、継続的な学校内での実践が行っていければ良いと思う。(無理なのは承知していますが...。)

## 6. その他研修全般を通じての感想・意見など

今回の研修のテーマが【復興と人材育成】だった。派遣前はいまいちピンとこなかったが、研修を終えてみてテーマの意味がわかってきた。STEP SAM2やプレイヴェーン教員養成校、カンボジア日本友好学園、IKTTといろいろな施設を訪問したが、すべてに共通するのが「人材育成」であった。外国から「支援」や「援助」をたくさんもらっているカンボジア。今は外国の資本や人材でカンボジアという国が動いている部分もあるが、国内の人材を育成することによって、カンボジア人が自らの力で国を動かす「自立」の方向に向かうための支援をしている団体も多く存在することがわかった。「人の力は偉大なり」ということわざは、言葉のとおり偉大だとわかった。

私は海外旅行経験もほとんどないに等しく、派遣前は修学旅行前の中学生のように、楽しみでもあり不安だった。しかし、カンボジアに行くと数日経つと、次第に現地に馴染んでいく自分がいた。言葉・文化・風習などの違いが派遣前の不安材料だったと今では思う。どこの国に行っても同じ人間、コミュニケーションをとることによってわかりあえるようになってくるのだと思った。自分を成長させてくれた研修であった。

## 7. 今後の本研修参加者へのアドバイス等

- ・思い立ったが吉日。興味があったらすぐ参加申し込み。  
とても有意義な研修です。参加して良かったと思います。少しでも気になったらすぐ申し込みをしましょう。
- ・現地情報を詳しく聞き、持ち物チェックを万全に。  
事前研修で「懐中電灯」と書いてあり何に使うかわからないままとりあえずと思って持っていたら、電気のないところに宿泊したので非常に重宝しました。
- ・健康第一、休む勇氣。  
慣れない土地での研修は結構ハードです。研修を充実させるために、体調が悪いときには一つぐらいプログラムを休む勇氣が必要です。無理をすると休まなければならないスケジュールが増えてしまいます。
- ・人との出会い～Priceless～  
研修に参加すると同じ教員の仲間との出会いはもちろんですが、いろいろな方との出会いがあります。その方たちとの語らいは非常に楽しく有意義なものになります。この出会いが自分の財産になります。